
20年連続～ケアンズ旅行2018

1. 海外旅行

初めてオーストラリアを訪れたのは、1992年の新婚旅行から。添乗員のご案内によるVIP待遇で、ゴールドコースト、メルボルン、シドニーを訪問。カンガルーやコアラなどの有袋類は可愛いし、雄大な風景、食べ物は美味しいし、現地の皆さんも優しいし。まあ、英語はウイッキーさんの“Have a nice day!”とご挨拶の“Good day.”“Thank you.”だけしかしゃべりませんが、オーストラリアなら何とかかなりそうで、海外旅行が好きになりました。



当時の会社では、若手営業マンが連続して休むなんて、職場放棄か犯罪か、ダメ社員とレッテル貼られて、嫌味言われて、査定でマイナス、挙句は人事異動まで。たった5日の休みを取るのが大変で、なんとか抵抗を試みましたが、結局は長いものに巻かれてしまいました。



1999年、ラグビーワールドカップがウエールズで開催された時、京都産業大学出身の選手が日本代表に選出されて、チケット手配も可能と聞いてどうしても現地に行きたくなって決死の覚悟で有給休暇申請願を出したところ、大畑ファンの上司がW杯グッズ購入と引き換えに認めてくれました。この翌年から、有休消化なんて言葉が流行して、2000年・2001年と連続でゴールデンウィークにパースを訪問、この会社で勤めた2007年までGWは海外旅行という慣例を貫きました。



退職して、今の会社に転職。新入社員ですから当分の間、自由は無いものと思ったところが、「ジョブ・ローテーション」なる言葉の流行と、会社の「仕事キッチリ&遊びしっかり」なんて方針から、我が家の恒例行事の海外旅行を認められて、2008年はワイルドフラワーのパス、2011年はニュージーランド・2015年はイングランドでラグビーワールドカップ、2017年はニュージーランドでライオンズツアーと調子に乗って通算19年、いまだに英語は話せません。



さて、継続は力なりなんて言いますが、20年も続けば立派な文化として、広く世間から認知いただけると信じて、オーストラリア一番人気のケアンズを目的地としました。テーマを決めることなく、ラグビーの試合の観戦予定も入れず、お気楽な道中です。



2. ケアンズ

今回はLook・JTBを選択。キャンペーン期間中で、早期予約は関西空港のラウンジで飲み放題、ホテル連泊で朝食サービス、ホテルにJTBラウンジがあってビールが無料、キュランダ観光付きで、日程次第で水族館の水槽前でディナーサービスなど、ホント、お財布に優しいJTBです。



到着日は、霧雨。ジェットスターの食事がイマイチで寝不足。午前チェックインで、少し休んでボードウォーク。海岸沿いにあるプールに入ろうと思うけど寒いし、ワンタンメン食べて、オプションツアー予約。



カジノの上にあるズーム&ワイルドライフドームへ。アスレチックする人間を見ながら動物と触れ合う空間で、コアラやワライカワセミとご対面。クロコダイルやパイソン(ニシキヘビ)も抱き締められます。ご希望ならば、パイソンに締めてもらえるようです。





夜は、ホテルのビュッフェで食べ放題。マッドクラブにロックオイスター、エビとイカの炒め物、スモークサーモン、オージービーフ、サラダバーにチーズバー、ソーセージにチャーハンと白ワイン1本開けてご満悦。素敵な「リッジス・エスプラネード・リゾート・ケアンズ」の夜となりました。



3. キュランダ

スカイレールというロープウェイに乗ってキュランダへひとつ飛び。ロープウェイと言えば、山一つ越える徳島県の太龍寺ロープウェイを思い出すのですが、こちら2.8kmに対し、キュランダもんは、途中乗り換えのレッドピーク駅まで2.7kmと、そこからバロンフォールズ駅経由キュランダ駅まで4.8kmと広大なオーストラリアの施設の勝ちですね。周辺の熱帯雨林は世界遺産で、建設時は環境に影響を与えないために、組み上げた鉄塔をヘリコプターで運んで設置したそうです。最も高い鉄塔で40.5m、1995年の完成時は世界最長の索道だったそうで、ロシアの会社の技術で施工しました。あと、ゴンドラについては、夜は鳥さんが激突しないように外すそうで、安全管理を含めて毎日脱着なんて信じられない作業を繰り返しているんですね。



晴天なら、遠くまで展望できるのですが、霧雨の中、空中散歩、レッドピーク駅ではボードウォークで熱帯雨林の森を体感、バロンフォールズ駅では、斜面を駆け抜ける滝を展望、目的地のキュランダに到着です。





決められた行程のランチタイムから、街角散策。アボリジニーアートのお店やオパール販売、洋服洋品店、手作り石鹸、マーケットにカフェ、レストランからタトゥーまで、小さなお店が軒を並べています。ガイドさんお勧めは、赤い小屋のジェラート店ですが、本日休業だったりします。



続いて、動物園に移動。物怖じしないワラビーさんや、落ち着きのないタスマニアデビル、ディンゴにコアラ、クロコダイルと豚鼻のウォンバットは眠ったまんま。やっぱ有袋類は可愛いですね。続いてのアトラクションは水陸両用のアーミーダックで熱帯雨林を進みます。うちわ椰子(クーンズランド・パンファーム)や寄生植物のかごシダ、ちょっと待っての木(ウエイアホワイル)から、バナナ、コーヒー、猛毒をもつ植物などの植物相を紹介してもらいます。でこぼこのダート道から、パロン川から分かれた池に突撃。「クロコダイルが襲ってくるかも～」って、観光用コースですから大丈夫です。



お帰りは、キュランダ列車で。10両ぐらいの客車を連結してディーゼル機関車が、ゆっくりと高原から都会に降りてきます。風景を見ながらゆっくり、ゆっくり。途中駅では列車を降りて滝を展望。ヘアピンカーブの横に見えるストーンクリーク滝。1日フルタイムで遊んだから、終着駅までうつらうつら。贅沢な鉄道の旅です。



4. 植物園と水族館

キュランダ観光を満喫した夜は、イタリアンで、誕生日を祝います。白ワインで乾杯、パスタにピザだけじゃ寂しいから、シーザーサラダを添えてと気楽に注文したら凄いボリューム。美味しいんだけど、食いきれん。親から残さず食べるよう教育された世代ですから、無理くり詰め込んでフィニッシュ。



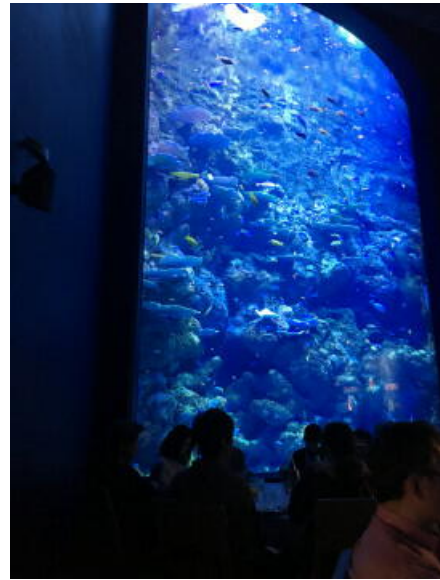
さて翌日、奥様の調子がイマイチ。バスで植物園まで行くも、高熱と腹痛でホテルにてノックアウト。当初予定では、ショッピングセンターでお土産物色、水着を買ってプールに入って街ブラという行程でしたが、すべてキャンセル。奥様を部屋に残して周辺散歩とポケモン搜索。かつて私も、ウエリントンで高熱を出して、マンゴージュースだけ飲んで1日眠りについて、ベッドの中で汗を流して熱を下げたなんて辛い経験もありましたが、早期回復を願う事しかできません。

夕食は、夜の水族館見学と水槽前のお魚を見ながらディナーというホスピタリティ(お接待)でしたが、とりあえず参加。ガーリックトーストにシーザーサラダ、オージービーフステーキ、デザートはパンナコッタという流れでしたが、なかなか難しかったようで、早く帰って翌日に備えました。





水族館は、昨年9月にオープンして、熱帯雨林の森林で集めた雨水が、流れて湿地帯(ピラポング)に集まり、大きな川となって、マングローブの林を通して、グレートバリアリーフの海に流れ込むという「水の一生」をテーマに展示しています。本物の珊瑚と、12mの水槽にグレートバリアリーフの魚が泳ぐシーンが見れる新しいスポットです。



5. ポートダグラス

数あるオプションツアーから今回選んだのは、「世界遺産モスマン溪谷とポートダグラスツアー」海の状態と天候を考慮して、よりリゾートを体感できそうなものをチョイスです。但し、当日は奥様の状態次第でドタキャン(代金全額取られますが)なんてこと恐れましたが、無事ツアーに参加です。ツアー当日は、私たち夫婦と札幌から来たシャイなお兄さんの3人を、石川県出身の日本人ツアーガイドさんが、丁寧に案内してくれました。もし、キャンセルしていたら、ガイドさんとお兄さんのマンツーマンで寂しいのか、贅沢なのか、どんな事になったんでしょうか。

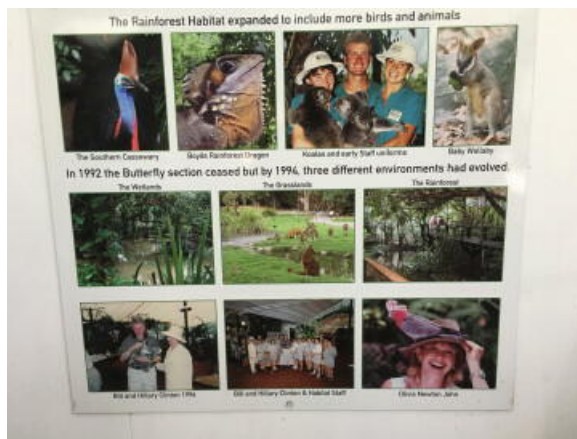


ケアンズから、ポートダグラスまで海岸線を北へ走ります。白砂のビーチに黒いゴロゴロ岩を見ると、高知県の甲浦から室戸に向かう国道55号線を進んでいるかと錯覚しましたが、トロピカルな木々とキラキラ輝く海で、リゾート気分でウキウキ。まずは、ポートダグラス展望台から4マイルビーチを展望。街に降りて来て周辺散策。自分用の小物のお土産探し、人気スポットのセントメアリーズ・バイ・ザ・シー教会で写真撮影。



ワイルドライフ・ハビタットに移動して、ランチタイム。メニューは、ハンバーガーとポテトで、奥様も美味しくいただきました。鳥さんイート、ワラビーさんメイト、なんてシーンを見学してモスマンに進みます。

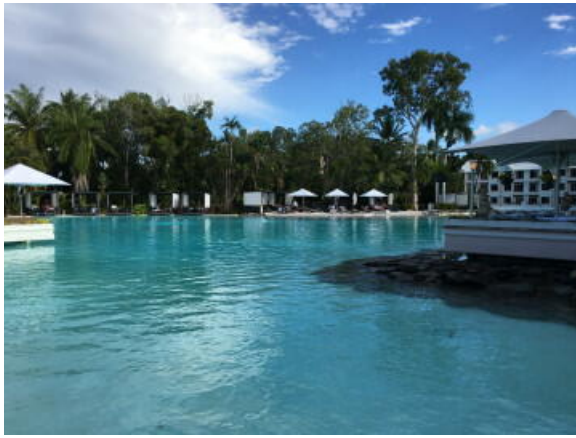




モスマンでは、先住民アボリジニーとご挨拶。「ヤラダー！」マイナスイオン溢れる熱帯雨林の森を散策、化石時代から生き残った植物、重さに耐えきれず落ちたかごシダ、收音マイクみたいな花など紹介があって、溪谷に流れる川を眺めます。健康的な白人の皆さんは、この流れの中、水着で泳いでいたようですが、黄色人種は寒いので、辞退して応援することに徹しました。モスマンは、エエトコだっせ〜手つかずの自然がおまっせ〜！



ポートダグラスツアーの最後は、リゾートホテルのシェラトン・ミラージュでアフタヌーン・ティー。スコーンにケーキ、シュークリームとか豪華ですが、お弁当箱に詰めてお持ち帰り。夕食(?)としてキープしました。次にポートダグラスに来るときは、こんなリゾートホテルに宿泊して何もしない贅沢を味わってみたいと思いました。



さてさて、海外旅行連続20年達成しました。来年は、ラグビーワールドカップ観戦に全力というか、全資力を使い果たそうと思っているので休憩。ハーフタイムじゃなくて、ハーフイヤーとして、後半戦に備えようと思っています。海外も、ええで。



2018年7月4日記(旅は2018年6月22日～27日)